サーフィン体験授業

「ふるさと・キャリア教育」の一環としてサーフィン体験授業が行われ、7月16日(木)には三浦小学校の6年生11名、17日(金)には田ノ口小学校の5・6年生14名が参加しました。

同授業は、児童らが自然の恵みを感じ、黒潮町への愛着を育むことなどをめざし町内にあるサーフショップの協力を得て行われ、今年で3回目となります。

児童らは、初めに準備運動を兼ねて砂浜のごみ拾いなどを行った後、幡多サーフ道場のブルースディロンさんから砂浜でボードの乗り方などの説明を受け、実際に海でのサーフィンに挑戦しました。

田ノ口小学校6年生の秋田陽向(あきたひなた)さんは、「去年体験したときは怖くて立てなかったけど、今年は頑張って立つことができて嬉しかった。また挑戦したい」と話しました。

波に乗る児童

第7回七夕飾りでおもてなし

大方ライオンズクラブ主催「第7回七夕飾りでおもてなし」が行われ、町内の園児や児童らの願いごとが書かれた短冊が笹につるされ、6月27日(土)から7月7日(火)まで町内の駅などに飾られました。

同取組は、土佐くろしお鉄道の協力のもと、駅を飾りつけることで利用者に季節を感じてもらい、児童らに「夢を持つことの大切さを伝えたい」という思いから実施されています。

例年は学校別に分かれ、土佐佐賀駅と土佐入野駅で飾り付けが行われていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響を受け、各保育所・学校で飾り付けがされた後、同クラブの代表者らが駅に展示しました。

入野小学校6年生の岩村成海(いわむらなるみ)さんは、「学校のみんなで飾り付けできたのは楽しかったけど、来年は新型コロナウイルスが収まり、駅に行って飾り付けができたらいいな」と話しました。

飾り付けをする児童ら

まほろば くろしお Vol.6

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。

レモン農家 下村 昌幸(まさゆき)さん

町が産地化をめざす「グリーンレモン」。現在、町では施設レモン栽培を新たに開始し複合経営をめざす方や施設レモン栽培の規模拡大をすることで農業所得向上を図る方に補助金を交付しています。下村さんは、グリーンレモン栽培の先駆者的存在。ミョウガ農家から果樹農家へ移行し、現在はセトカとグリーンレモンを栽培しています。これから出荷のピークを迎えるグリーンレモンや下村さんが向き合う農業について聞きました。

施設レモン栽培を始めたきっかけは?

黒潮町にUターンし、農業を始めました。1年中ミョウガを作っていましたが、何か新しいことをしたいと考えたとき、今までの経験などから、野菜ではなく「果樹栽培」に目をつけました。そこで愛媛県でセトカを栽培する農家を訪れ、その時にレモンも良いのではと考えました。平成18年、ミョウガハウスの一部をセトカのハウスに、平成22年にはグリーンレモンに取り掛かり、少しずつミョウガから果樹へのシフトを行いました。初めは資金繰りに苦労しましたし、技術面でも手探りで勉強しながらの挑戦でした。

その後、グリーンレモンの産地化をめざす町からの依頼もあり、新たにグリーンレモンを栽培する農家への技術支援を行うことになりました。現在では、ハウス建設の補助などが事業化されるなど町の支援もあり、「黒潮町グリーンレモン研究会」というグループに8軒の農家が所属しています。

収穫されたグリーンレモン

グリーンレモンの特徴は?

グリーンは国産の証。果汁は少なめですが、レモン本来のピリッとした酸味とさわやかな香りが特徴です。おすすめはスポーツドリンクや炭酸飲料に絞って飲んでもらうこと。すっきりとした後味になりますよ。

出荷準備中の下村さん

農業の魅力と今後の目標は?

人に気を遣わず、自分の好きなことができることですね。初期投資など覚悟は必要ですが、挑戦して成功したときの喜びは格別。紆余曲折あっても、夢を見ることができます。目標は、黒潮町をグリーンレモンの日本一の産地にすること。それを叶えたらまた新たな夢を見つけたいですね。

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookに掲載します。裏表紙のQRコードからご確認ください。